

近藤幹夫さん(88歳)

終戦直前の昭和20年8月12日に18歳で繰り上げ召集。戦後の混乱でシベリア行に巻き込まれたが、数人と一緒に逃亡した。すぐに共産軍捕虜となり苦難の末帰国した。

杉浦六郎さん(85歳)

トヨタ技能養成所の6期生で入社2年目に29の爆撃を体験。実習工場で働いていたが警戒警報で全員防空壕に避難したが、伝令員として工場に残り3発の爆撃を体験・目撃した。

吉橋弘二さん(94歳)

1942年6月から8月まで中国華北での中国軍包囲作戦に参加。武器を捨てて逃げる中国軍と中国人民を殺害し大量の武器を奪った。その後南方戦線から沖縄戦に参加。運がよく無事帰還した。

岡田邦雄さん(79歳)

空襲体験者。渡刈町在住のB29研究者。1945年8月14日にトヨタ自動車を狙った3発の模擬原子爆弾パンプキンについて詳しく説明した。(豊田市戦争展のHPからトヨタ爆撃の真相を参照)

柴田隆一さん(89歳)

1943年4月から東京武蔵野の部品工場に就職。5月には近くの航空機の生産拠点でB29の爆撃を受けた。1944年18歳で徴兵され特攻部隊配属。岐阜の笠松小学校で強制収容同様の生活が続いた。8月20日に陸軍の将校が終戦を告げた。

本村映一さん(74歳)

長崎で被爆。当時4歳11ヶ月で神社の境内で遊んでいた。ピカッ、ド、ド、ド、ドーンの大音響、突風と砂塵は今も鮮明に感覚が残っている。その日の夜の防空壕はうめき声と灼けただれた肌の匂いを覚えている。